

【耳の健康】

耳は鼻や咽頭とつながっています。子どもの耳管は太くて短いため、鼻やのどの細菌やウイルスが耳管を通して耳の中に入りやすく、中耳炎の原因にもなります。

それらの症状は分かりにくい事もあります。お子さんがよく耳を触る、または痛がる姿が見られた時には、耳の病気にも注意しましょう。

★ ことばと聴力 ★

0～4歳頃はことばを覚える大切な時期です。この時に耳が聞こえない状態だと言葉の習得が難しくなります。

難聴は生まれつきのこともあります。耳の炎症や流行性耳下腺炎などの後遺症から難聴になることもあります。



★ もしかしたら耳の病気かも・・・気をつけたい6つのポイント ★

☆ 呼びかけても気がつかない ☆

後ろから呼びかけた時に、他の子どもたちには聞こえるのに気づいていない場合、正面から小さな声で話しかけても反応が薄い場合など・・・

疑われる病気：滲出性中耳炎・難聴

☆ 耳がにおう ☆

耳だれや炎症の可能性があります。耳の周りも清潔にすることが大切です。

疑われる病気：中耳炎・外耳炎・外耳道異物

☆ 声大きい ☆

子どもが大きい声で話す時は、それが自分にとって聞きやすいからだと思うため、聞こえが悪いことが心配されます。

疑われる病気：滲出性中耳炎・難聴

☆ 耳をよく触る ☆

耳を痒がる、つまった感じがするなど気になる症状がある場合に見られます。うまく症状を伝えられない子どもにこのような様子がある場合には注意が必要です。

疑われる病気：滲出性中耳炎・外耳炎難聴

☆ 聞き間違いが多い ☆

何度も聞き返す場合や聞き間違いが多い場合には、聞こえが悪い事が心配されます。

疑われる病気：滲出性中耳炎・難聴

☆ 耳だれ、湿疹がある ☆

このような症状で痛みを伴う場合には注意が必要です。ただし、慢性中耳炎の場合には痛みがない事が多いです。

疑われる病気：中耳炎・外耳炎・外耳道異物

★ 遊びの中での耳のトラブル ★

楽しい遊びの中で、子どもの好奇心からトラブルが起きる事もあります。

ブロックや花の種を耳に詰めて、取れなくなる事もあります。無理にとろうとすると、粘膜を傷つけたり出血する事もありますので、耳鼻科に相談しましょう。



☆ 気になる症状が見られたら、早めに受診をしましょう。症状がひどくならないように、早めに治療を行うことが大切です。